

これからのアジアの環境人材育成を考える会・中間提言

1(1)アジアの環境人材を取り巻く状況

資料5②

アジア諸国

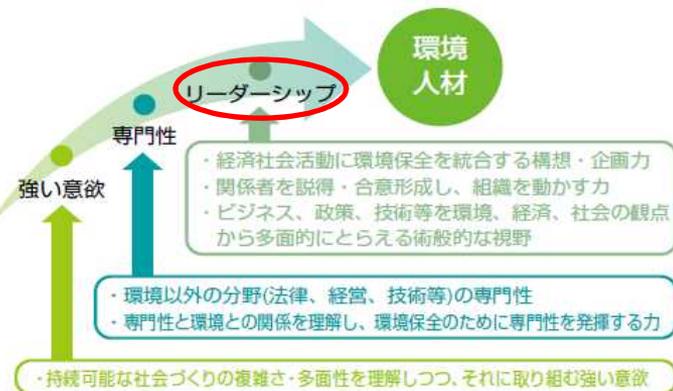
急速な経済成長による様々な環境問題に直面

日本

持続可能な社会づくりに向けて一層の努力が必要

1(2)育成すべき環境人材のターゲット

日本及びアジア諸国等の民間セクターにおいて、意欲と専門性、リーダーシップを備えた環境人材の育成を戦略的に進めていくことが必要



2. これまでの環境人材育成に関する取組

平成20年に取りまとめられたアジア環境人材育成ビジョンに基づき、①環境人材育成コンソーシアム(EcoLeaD)、②国連大学によるアジアの大学院ネットワーク(ProSPER.Net)を立ち上げ、取組を開始したが、参加団体の不足等課題は多い。

①環境人材育成コンソーシアム



- ・環境教育を施す大学側と、受け入れる企業側のニーズのギャップ
- ・参加団体の数が不十分

②アジア大学院ネットワーク

Promotion of
Sustainability in
Postgraduate
Education and
Research
Network
→ ProSPER.Net

大学院レベルの教育・研究に持続可能性の教育の統合することを旨とするネットワーク(事務局: 国連大学高等研究所)

- ・若手研究者を対象とした試行的事業から、本格的な実践への移行に至らず

3. 今後の環境人材育成に向けた方向性

①日本企業の経営者等

○体系的・総合的プログラム、
共通テキスト・教材等の作成

○環境人材育成のための相談先・
ネットワークの整備
○人材育成の重要性に係る啓発

②日本で学ぶ大学生等

○体系的・総合的プログラム、
共通テキスト・教材の作成
○オンライン授業、授業の英語化

○参加・体験型教育等のための
企業との連携体制整備
○大学間のネットワーク構築
○アジアの人材育成拠点の整備

③アジア諸国等の技術者等

○各事業共通の人材育成プログラムの整備

○アジア各国に所在する大学の
拠点化及びネットワーク構築

プログラム・教材の充実

拠点・ネットワーク整備

4. 当面の取組

(1)EcoLeaDによる取組の強化

- 各プログラムの改善・英語化、オンライン講座等の実施、インセンティブ付与の仕組の早期検討などへの支援
- 企業への相談窓口設置、大学と企業との連携強化支援、優良企業表彰などの支援
- 他の関係機関との連携も視野に入れたEcoLeaDの組織の早期見直し

(2)ProSPER.Netによる取組の強化

- 試行的事業からリーダー育成に向けた事業に移行するための支援
- ProSPER.Netが様々なネットワークの中心的役割を果たせるような仕組みづくりや共同研究事業の支援
- ESDグローバルアクションプログラムの推進主体の一つとして活動が行えるような支援

(3)個別環境協力事業における人材育成の取組

- 二国間クレジット制度等の我が国の環境協力事業に共通する知識に係る教育プログラムの作成・活用
- 水俣市における連携大学院とEcoLeaD・ProSPER.Netが連携した新たな拠点づくりへの支援
- 環境省事業として実施された個別の取組の知見・経験を整理・共有するための人材育成の基盤強化